

松本市旧城下町の住宅地における空間構成の特徴

平岡直樹・小池政嗣・高木由久*・Emanouil SPASSOV**・木村郁実***・佐々木邦博

信州大学農学部 森林科学科 緑地環境文化学講座

*^(株)カーター・アート環境計画 150-0013 東京都渋谷区

**ミネソタ大学 ミネアポリス MN 55455 USA

***東京都建設局 163-8001 東京都新宿区

要約 本研究は松本旧城下町を対象とし、歴史的住宅地の持つ空間構成の特徴を明らかにすることを目的とする。旧軽輩武家町の中から西町と堂町を事例地として選び、町並みの特徴を最も表出する道路から見える空間の構成を調査した。

その結果、伝統的な構成要素である門冠り、門柱、囲障、これらのセットバック、むくり破風等が特に強い相互関連をもって出現していることが明らかになった。そして、それらの代表的な素材や形状は、アカマツの門冠り、一間以上の高い石柱や木柱、高さ一間あまりの板塀、道路線から半間程度のセットバック、玄関上のむくり破風である。これらはそれぞれが歴史的な構成要素としてあらわれるだけでなく、組み合わせられ、一つの格式を持った門構えとして出現することで、より一層旧武家町としての町並みの特徴をあらわしている。

キーワード：松本旧城下町，武家町，歴史的住宅地

研究の目的

都市の個性の重要性が認識されてから久しい。しかし、都市全体が現す特徴とは別に、もっとミクロな単位で、町ごとに特徴を持つ場合も多く、それぞれが居住環境の良さ、町並みの魅力につながっている。そこで着目されるのは、建築物ばかりでなく、各々の家の敷地内の空間構成である。建て替えられて敷地全体の建物や庭の配置が変化する場合もあろうし、あるいは当初のパターン（配置や特徴）を踏襲する場合もあろう。そこにはたとえ建造物が古いものではないにしろ、なんらかの痕跡が残されているのであり、その共通する痕跡が多く見られる場所はその町特有の景観が形成されているといえる。

そこで本研究の目的だが、松本市を対象とし、このような痕跡が道路から見える門やアプローチ、あるいは囲障などにおいて、どういう形でどこにどれくらい残っているのかを調査して明らかにすることにある。さらに、5年前の調査記録と比較し、近年の変化をも明らかにしたい。

既存の研究だが、家並みそのものの調査はいろいろな場所で行われているが、このように空間の構成の特徴を捉えようとした研究は未だなされていない。

事例地の概要

松本の城下町は1585年（天正13年）の小笠原氏の頃から、1725年（享保10年）の水野氏改易までの約140年間に完成された。城下町は城郭、武家地、町人地、寺社地域と4つの構成地区からなる。町全体の配置は、南部と東部を主な町人地とし、北部に武士の居住区を広げ、東部外側にはベルト状に寺社地域を配備してその防衛力を高めている^{1,2)}(図1)。

城下町時代以来残されている町並みの様相は、屋敷割りと建築物の2点から把握することができる。まず、屋敷割りだが、城郭内や隣接部に位置する高禄武家地内の屋敷街は、一軒が数百坪を越えるような広大な面積であったため、維新後の払い下げなどで細分化され、昔の屋敷割りをほとんど留めていない。それに対して、善光寺街道をはさんで西側の口張町、同心町、堂町、西町、旗町、徒士町などの軽輩武家地は面積が小さくなり当時の屋敷割り1つに現在も一軒が対応している場合が多い。特に西町は昔の屋敷割りがよく残されている。街道東側の東ノ町、中ノ町、天白町、上下町、下町などはさらに敷地が狭いため、その後はやや家屋と屋敷割りがくずれている³⁾。また、建築物については、旧街道の東側は明治19年の、西側は明治45年の大火により罹災している。よって多くの建築物が失われたが、木

受理日 5月6日

採択日 7月7日

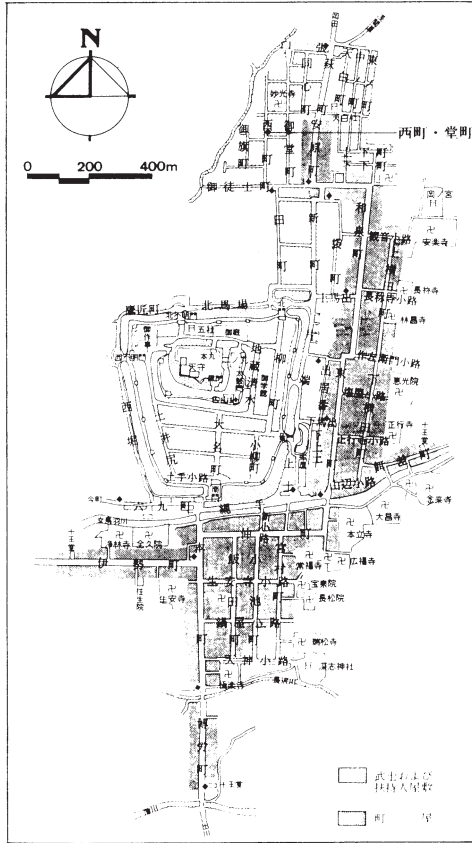


図1 明治維新前の松本 出典：文献⁴⁾改



図2 調査対象地区 基図：文献⁵⁾

造建築で再建築された町並みが西側地区の西町をはじめ旗町、堂町、口張町、同心町に多く残っている。

このような理由から、本研究の事例地として、城下町時代から土地利用上の変化が少なく、町並みの様相を最も多く受け継いでいると考えられる旧軽輩武家屋敷の中から、西町と堂町を選択した。西町と堂町は徒士町を起点としてほぼ真北に隣り合って平行に延びている。延長はそれぞれ約370m、約380mで、その両者の間隔は約70mである。道路幅は両町とも4m以下である。3本の東西路が両道路の間を結んでいる(図1, 図2)。現在は松本市北深志二丁目及び開智三丁目に属している。

研究の方法

現在の西町と堂町の戸数はそれぞれ54戸、60戸である。しかし空地やアパート等は、敷地割り以外には歴史的町並みの様相を受け継いでいないと考えられるので、それらは調査対象からはずし、主に住宅として用いられている西町44戸、堂町46戸、全体で90戸を調査対象とし、調査、分析を行った。

調査方法は現地において計測を行い、必要な項目

には住人への聞き取り調査も行い、調査票に記入した。

調査項目は、町並みの特徴を最も表出していると考えられる道路から見える空間の構成を重点的に調査した。その中から特に特徴が顕著であった項目、1. 門、入口、2. 門冠り、3. 囲障、4. アプローチ、5. むくり破風を取り上げ、分析と考察を行った。

調査は1997年5月から6月にかけて行った。



図3 西町の住宅入口 セットバック、石柱、門冠り、板塀、飛石、むくり破風が見える。

町並みの要素の特徴

まず調査して得られた各項目ごとの集計結果の分析と考察を行った。

1 門, 入口

(1) 開口幅

開口幅を旧来より建築時に多く用いられる尺単位による寸法設定からメートル法に換算した数値 150cm, 180cm, 210cm などを用いて, それらの数値を中心とした前後15cm で区分したのが表1である。西町, 堂町ともに255cm 以上が最も多いが, 堂町は西町に比べて165cm 未満, 255cm 以上の割合がやや高くなっている。

(2) セットバック

セットバックとは門柱等が道路境界線より敷地側に後退して設置されていることである。しばしばハの字型を描いて後退している(図3)。セットバックの有無については表2に示したように西町, 堂町ともに約半数の住宅でセットバックが見られる。また表2にはセットバック距離を開口幅と同様に尺単位を基準に分類した。西町, 堂町共に75~105cm がもっとも多いが, 西町の方が割合が高い。

このようにセットバックを90cm 前後, つまり半間前後設ける構成が多い。

(3) 門柱

門柱の有無については表3に示したように堂町が西町よりやや高いが, ほぼ同様に3分の2の割合で設置されている。また表3には門柱の高さを尺単位を基準に分類した。西町では165~195cm が最も多いが, 堂町では225~255cm が最も多い。堂町では255cm 以上の門柱はないが, 西町では約2割見られる。門柱の素材ごとの平均高については表13に示したように木材が最も高く, 続いて石材, ブロック, その他の順である。門柱の素材については表4のように西町ではブロックと石材が同様に設置率が高いのに対し, 堂町ではブロックの設置率が50%以上と高い。

このように西町には高い門柱が見られる。門柱の素材が木材や石材のとき高い平均高を示すのは, 無垢の丸太や石柱という強度のある素材を使用しているためと考えられる。

2 門冠り

門冠りの有無については表5で示すように西町, 堂町ともに約2割で植栽されている。門冠りの樹種については4分の3以上がアカマツである。表6で

は門冠りの位置について, 門冠りと門との位置関係を相対的に及び方角で示した。まず相対的に見たとき西町では門の左, 堂町では門の右がそれぞれ約3分の2を占めている。次に方角で見ると西町ではほとんどが門の北側に, 堂町では門の北側と南側がそれぞれ半数である。

門冠りのある住宅はおよそ5軒に1軒と多くはないが, その樹種はアカマツが大部分である。また西町では門冠りを特に門の北側に植える傾向が強いことがうかがえる。

3 囲障

囲障の有無については表7に示すように西町, 堂町ともに高い割合で囲障が設置されている。また表7にて囲障の高さを尺単位を基準にして分類した。西町では135~165cm が最も多いが, 堂町では165~195cm が最も多い。囲障の素材毎の平均高は表13に示すように西町では最も高いのが植物, 最も低いのがブロックである。堂町では最も高いのが木材, 最も低いのが石材である。囲障の素材については表8に示した。囲障が複数の素材を用いて造られていた場合はそれぞれを計上した。西町, 堂町ともにブロックがほぼ半数を占める。西町の方が堂町より植物の利用が多い。生垣の樹種を表9に示した。使用されていた樹種はイチイなど全部で7種類であった。囲障素材に植物を利用することの少ない堂町ではイチイ, マサキがそれぞれ1戸で植栽されていた。西町ではマサキの3戸をはじめ, イチイ以外の5種類がそれぞれ1戸で植栽されている。

以上のようにおよそ9割と多くの住宅で囲障が設置されている。素材としては人工素材であるブロックの利用率が大きい, 木材を利用した囲障, つまり板塀も2割程度用いられている。囲障の高さは堂町では165~195cm 前後が半数近くを占めているのに対し, 西町では135cm より低いもの, 195cm 以上のものも多く, 堂町に比べて多様であるといえる。植物や木材などの軽量なもの, コンクリートなど強度のあるものが多く, ブロック, 石材などの重く, 積み上げる材質の囲障が低いことがわかる。頻度との関わりで見ると, 最も出現率の大きいブロックは最も低い囲障である。続いて出現率の大きい木材や植物は高い囲障である。生垣の樹種としてはマサキが複数用いられているが, 他の樹種は一戸ずつしか用いられていない。また西町の方が生垣が多く, 樹種も多様である。このように, 西町における囲障素材の多様性が, 囲障高の幅の広さにも影響を与えていると考えられる。

4 アプローチ部

町ともに4割あまりの住宅で門扉が設置されている。

(1) 門扉

しかし門柱や囲障に比べると設置率は低い。

門扉の有無については表10に示すように西町、堂

(2) アプローチの種類

表1 門・入口の開口幅

戸数 (率)

地区\幅	w<165cm	165≤w<195	195≤w<225	225≤w<255	255≤w	横 計
西 町	2 (5%)	11 (25%)	11 (25%)	4 (9%)	16 (36%)	44 (100%)
堂 町	5 (11%)	9 (20%)	6 (13%)	5 (11%)	21 (46%)	46 (100%)

表2 セットバックの有無と距離

戸籍 (率/小計) 率

有 無	あ り						な し	横 計	
	w>45cm	45≤w<75	75≤w<105	105≤w<135	135≤w	横小計			
西 町	4 (18%)	3 (14%)	13 (59%)	0 (0%)	2 (9%)	22(100%)	50%	22 50%	44 100%
堂 町	2 (9%)	6 (27%)	9 (41%)	2 (9%)	3 (14%)	22(100%)	48%	24 52%	46 100%

表3 門柱の有無と高さ

戸数 (率/小計) 率

有 無	あ り						な し	横 計	
	h>165cm	165≤h<195	195≤h<225	225≤h<255	255≤h	横小計			
西 町	6 (22%)	7 (26%)	4 (15%)	5 (19%)	5 (19%)	27(100%)	61%	17 39%	44 100%
堂 町	7 (23%)	8 (26%)	7 (23%)	9 (29%)	0 (0%)	31(100%)	67%	15 33%	46 100%

表4 門柱の素材

戸数 (率)

地区\素材	石 材	木 材	ブ ロ ッ ク	そ の 他	横 計
西 町	10 (37%)	5 (19%)	10 (37%)	2 (7%)	27 (100%)
堂 町	7 (23%)	6 (19%)	16 (52%)	2 (6%)	31 (100%)

表5 門冠りの有無と樹種

戸数 (率/小計) 率

有 無	あ り			な し	横 計	
	アカマツ	クロマツ	横 小 計			
西 町	7 (78%)	2 (22%)	9 (100%)	20%	35 80%	44 100%
堂 町	6 (75%)	2 (25%)	8 (100%)	17%	38 83%	46 100%

表6 門冠りと門の位置関係

戸数 (率)

位置基準	相 対 位 置			方 角		
	門 の 左	門 の 右	横 計	門 の 北 側	門 の 南 側	横 計
西 町	6 (67%)	3 (33%)	9 (100%)	8 (89%)	1 (11%)	9 (100%)
堂 町	3 (38%)	5 (63%)	8 (100%)	4 (50%)	4 (50%)	8 (100%)

表7 囲障の有無と高さ

戸数 (率/小計) 率

有 無	あ り							な し	横 計	
	h<105cm	105≤h<135	135≤h<165	165≤h<195	195≤h<225	225≤h	横小計			
西 町	1 (2%)	9 (22%)	14 (34%)	11 (27%)	5 (12%)	1 (2%)	41(100%)	93%	3 7%	44 100%
堂 町	1 (2%)	2 (5%)	15 (37%)	20 (49%)	3 (7%)	0 (0%)	41(100%)	89%	5 11%	46 100%

表8 囲障の素材

戸数 [複数] (率)

地区\素材	植 物	木 材	石 材	ブ ロ ッ ク	コンクリート	そ の 他	横 計
西 町	7 (14%)	9 (18%)	2 (4%)	24 (47%)	4 (8%)	5 (10%)	51 (100%)
堂 町	2 (4%)	11 (23%)	1 (2%)	24 (51%)	3 (6%)	6 (13%)	47 (100%)

門から玄関へのアプローチの種類については表11に示した。西町ではコンクリートが最も多く、続いて飛石、延段と多い。それに対して堂町ではコンクリート、続いて裸地が多い。また西町に見られるレンガ、砂利は堂町では見られない。

以上のように西町では飛石、延段といった日本庭園で利用される素材やレンガなど、修景を意図した素材が多く見られる。これに対して堂町ではコンクリートや裸地など西町に比して利便を意図した廉価な素材が多く見られる。また西町の方が素材に関してやや多様である。

5 むくり破風

むくり破風とは、破風板が上方に向かって凸型に反っている破風のことである。この地区では玄関上部の張り出した屋根にしばしば付けられている(図3)。このむくり破風の有無については表12に示すように、西町では8戸、堂町では4戸見られる。む

表11 アプローチの種類

地区\種類	コンクリート	飛石	裸地	延段	アスファルト	レンガ	砂利	アプローチなし	横計
西町	15 (34%)	13 (30%)	4 (9%)	5 (11%)	1 (2%)	3 (7%)	2 (5%)	1 (2%)	44(100%)
堂町	23 (50%)	4 (9%)	9 (20%)	6 (13%)	2 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (4%)	46(100%)

表12 むくり破風の有無

地区\有無	あり	なし	横計
西町	8 (18%)	36 (82%)	44 (100%)
堂町	4 (9%)	42 (91%)	46 (100%)

表13 門柱と囲障の素材毎の平均高

地区	素材	平均高 (cm)	
		門柱	囲障
西町	植物	—	195
	石材	228	158
	木材	237	161
	ブロック	189	145
	コンクリ	—	179
	その他	159	152
	全素材	210	158
堂町	植物	—	170
	石材	228	141
	木材	229	177
	ブロック	172	158
	コンクリ	—	169
	その他	167	153
	全素材	195	164

くり破風を持つ家屋は1~2割程度とわずかではあるが、西町の方で多く見られる。

表9 生垣の樹種

戸数 [複数]

樹種\地区	西町	堂町
イチイ	0	1
オオゴンヒバ	1	0
サワラ	1	0
ツルマサキ	1	0
ヒイラギ	1	0
マサキ	3	1
レッドロビン	1	0
計	8	2

表10 門扉の有無

戸数 (率)

地区\有無	あり	なし	横計
西町	18 (41%)	26 (59%)	44 (100%)
堂町	19 (41%)	27 (59%)	46 (100%)

西町、堂町に見る町並みの要素の特徴的な組合せ

町並みの特徴は各構成要素によりそれぞれ表出されているだけでなく、様々な要素が互いに相関関係をもって構成されているところにあると考えられる。この章では西町、堂町に見られる各項目のクロス集計を行い、その中で特に特徴的な組み合わせだけを取り上げ、考察した。表はすべて表の横を表の縦でブレイクダウンし、横計を基数に相対度数(%)を求めて作成してある。また繁雑さをなくするため、単純集計表よりも表内の項目を統合、省略した場合もある。特徴が顕著に表出しているセットバックから考察を行う。

1 「門、入口の開口幅」と「セットバックの有無」の関係(表14)

西町ではセットバックがあるとき、開口幅165~195cmが最も多く、続いて195~225cmとなっている。セットバックがないときは255cm以上が最も多い。堂町ではセットバックがあるとき、165~195cmと255cm以上がそれぞれ最も多く、セットバックがないときは255cm以上が最も多い。

このようにセットバックがある場合は165~195cm、つまり一間幅前後の開口幅が多く、セットバ

表14 門・入口の開口幅とセットバックの有無

戸数 (率)

地区	セット\開口	w < 165cm	165 ≤ w < 195	195 ≤ w < 225	225 ≤ w < 255	255 ≤ w	横 計
西町	あ り	1 (5%)	8 (36%)	7 (32%)	0 (0%)	6 (27%)	22 (100%)
	な し	1 (5%)	3 (14%)	4 (18%)	4 (18%)	10 (45%)	22 (100%)
堂町	あ り	2 (9%)	7 (32%)	3 (14%)	3 (14%)	7 (32%)	22 (100%)
	な し	3 (13%)	2 (8%)	3 (13%)	2 (8%)	14 (58%)	22 (100%)

表15 門柱の有無とセットバックの有無

戸数 (率)

地区	セット\柱	あ り	な し	横 計
西町	あ り	20 (91%)	2 (9%)	22 (100%)
	な し	7 (32%)	15 (68%)	22 (100%)
堂町	あ り	20 (91%)	2 (9%)	22 (100%)
	な し	11 (46%)	13 (54%)	24 (100%)

表16 門柱の素材とセットバックの有無

戸数 (率)

地区	セット\門柱	木 材	石 材	ブロック	そ の 他	横 計
西町	あ り	5 (25%)	10 (50%)	5 (25%)	0 (0%)	22 (100%)
	な し	0 (0%)	0 (0%)	5 (71%)	2 (29%)	7 (100%)
堂町	あ り	5 (25%)	7 (35%)	6 (30%)	2 (10%)	20 (100%)
	な し	1 (9%)	0 (0%)	10 (91%)	0 (0%)	11 (100%)

表17 セットバック距離と門柱の素材

戸数 (率)

地区	門柱\セット	w = 0cm	0 ≤ w < 45cm	45 ≤ w < 75	75 ≤ w < 105	105 ≤ w	横 計
西町	石 材	0 (0%)	2 (20%)	3 (30%)	5 (50%)	0 (0%)	10 (100%)
	木 材	0 (0%)	2 (40%)	1 (20%)	2 (40%)	0 (0%)	5 (100%)
	ブロック他	7 (58%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (25%)	2 (17%)	12 (100%)
堂町	石 材	0 (0%)	1 (14%)	1 (14%)	3 (43%)	2 (29%)	7 (100%)
	木 材	1 (17%)	0 (0%)	4 (67%)	1 (17%)	0 (0%)	6 (100%)
	ブロック他	10 (56%)	1 (6%)	1 (6%)	4 (22%)	2 (11%)	18 (100%)

表18 囲障の素材とセットバックの有無

戸数 (率)

地区	セット\囲障	植 物	木 材	石 材	ブロック他	横 計
西町	あ り	2 (7%)	7 (26%)	2 (7%)	16 (59%)	27 (100%)
	な し	5 (21%)	2 (8%)	0 (0%)	17 (71%)	24 (100%)
堂町	あ り	1 (4%)	10 (40%)	0 (0%)	14 (56%)	25 (100%)
	な し	1 (5%)	1 (5%)	1 (5%)	19 (86%)	22 (100%)

表19 囲障の高さとセットバックの有無

戸数 (率)

地区	セット\囲障	h < 135cm	135 ≤ h < 165	165 ≤ h < 195	195 ≤ h	横 計
西町	あ り	5 (24%)	5 (24%)	7 (33%)	4 (19%)	21 (100%)
	な し	5 (25%)	9 (45%)	4 (20%)	2 (10%)	20 (100%)
堂町	あ り	1 (5%)	5 (24%)	13 (62%)	2 (10%)	21 (100%)
	な し	2 (10%)	10 (50%)	7 (35%)	1 (5%)	20 (100%)

表20 アプローチの種類とセットバックの有無

戸数 (率)

地区	セット\アプロ	コンクリート	飛 石	裸 地	延 段	アスファルト他	横 計
西町	あ り	5 (23%)	8 (36%)	3 (14%)	4 (18%)	2 (9%)	22 (100%)
	な し	10 (48%)	5 (24%)	1 (5%)	1 (5%)	4 (19%)	21 (100%)
堂町	あ り	14 (64%)	3 (14%)	2 (9%)	3 (14%)	0 (0%)	22 (100%)
	な し	9 (41%)	1 (5%)	7 (32%)	3 (14%)	2 (9%)	22 (100%)

ックがない場合は開口幅がかなり広くなる傾向がある。セットバックの設置が門や入口の開口幅に影響を与えていることがわかる。

2 「門柱の有無」と「セットバックの有無」の関係 (表15)

西町、堂町ともにセットバックがあるとき9割以上の場合に門柱があり、セットバックがないときは高い割合で門柱もない。セットバックがあり門柱がないのはわずかである。

ゆえにセットバックと門柱の設置は一つの組合せではないかと考えられる。

3 「門柱の素材」と「セットバックの有無」の関係 (表16)

西町、堂町ともにセットバックがあるときは門柱の素材は石材が最も多く、続いてブロック、木材が同程度になっている。セットバックがないときはブロックが最も多く、石材は全く使用されない。つまり石材の門柱が設置される時は必ずセットバックがなされる。

このようにセットバックが設けられるとき、門柱の素材は多くの場合に石材、木材という伝統的な自然素材が使われている。セットバックがないときはほとんどがブロック等の新しい人工素材となる。

4 「セットバック距離」と「門柱の素材」の関係 (表17)

西町、堂町ともに門柱の素材が石材のときセットバック距離75~105cmが最も多い。セットバック距離が0 cmはない。素材が木材のときは西町では45cm未満や75~105cmが多い。堂町では45~75cmが最も多い。ブロック他のときは西町、堂町ともにセットバック距離0 cmが半数以上と最も多く、続いて75, 105cm以上等と距離が大きくなる。

このように門柱が石材のときはセットバック距離は半間前後が多く、木材のときはそれよりやや狭くなる傾向がある。ブロックのときはセットバックが行われない場合が多いが、行われるときには半間前後が多くなる。ブロック等は伝統的なセットバックの手法を取り入れないで道路線一杯まで敷地を確保する形態をとるか、もしくは石材と同様な使われ方をしてセットバックを半間程度設ける形態をとるものと考えられる。

5 「囲障の素材」と「セットバックの有無」の関係 (表18)

西町、堂町ともにセットバックがあるとき囲障の素材はブロック他が最も多く、続いて木材となっている。セットバックがないときはブロックが7割以

上となり、木材は少なくなる。特に堂町で顕著である。西町ではセットバックがないとき植物の利用が増加する。

このように全体的にブロック等の囲障の設置率が高いが、セットバックがあるときはその比率はやや低くなり、替りに木材の囲障の設置率が大きく増加している。木材の囲障には高い割合でセットバックが設置されている。

6 「囲障の高さ」と「セットバックの有無」の関係 (表19)

西町、堂町ともにセットバックがあるとき囲障の高さは165~195cmが最も多く、続いて135~165cm等が多い。セットバックがないときは135~165cmが最も多く、次に165~195cmとなっている。これは堂町でより顕著である。

以上のようにセットバックがあるときは高さが一問前後の囲障が多く、セットバックがないときはやや低くなる傾向がある。

7 「アプローチの種類」と「セットバックの有無」の関係 (表20)

西町ではセットバックがあるときアプローチの種類は飛石が最も多く、続いてコンクリート等となっている。セットバックがないときはコンクリートが約半数を占め、アスファルトも多くなる。堂町ではセットバックのあるときはコンクリートがかなり多いが、続いて飛石、延段が多くなる。セットバックのないときはコンクリートが最も多いが、裸地も多くなる。

以上のように全体的にコンクリートの使用率が高いが、セットバックの設置は飛石や延段などの、古くからあり伝統的といえるアプローチの設置を伴う傾向がある。

8 「セットバックの有無」と「門冠りの有無」の関係 (表21)

西町、堂町ともに門冠りがあるときは4分の3以上でセットバックもある。また門冠りがないときは多くの場合にセットバックもない。

このように門冠りがあるときは高い割合でセットバックが設置されていることから、門冠りの植栽はセットバックの設置を同時に伴う傾向が強いといえる。

9 「セットバックの有無」と「むくり破風の有無」の関係 (表22)

西町、堂町ともにむくり破風があるときほとんどの場合セットバックがある。セットバックがないのはごくわずかである。堂町ではむくり破風があると

きは必ずセットバックが設置されている。むくり破風がないときはセットバックもない場合が多くなる。

このように家屋にむくり破風があるときは、ほとんどの場合において入口部分にセットバックの設置を伴っている。

10 「門柱の有無」と「門冠りの有無」の関係 (表23)

西町では門冠りがあるときは必ず門柱が設置されている。堂町でも4分の3の割合で設置される。

このように門冠りが植えられるときはかなり高い割合で門柱の設置を伴っている。

11 「門柱の有無」と「むくり破風の有無」の関係 (表24)

西町、堂町ともにむくり破風があるときは高い割合で門柱が設置されている。堂町ではいつも門柱が設置される。

このようにむくり破風は必ずといっていいほど門柱の設置を伴うといえる。

12 「門、入口の開口幅」と「門柱の素材」の関係 (表25)

西町、堂町ともに門柱が石材とき開口幅165~195cm や195~225cm が最も多い。木材のときは165~195cm が特に多くなる。ブロック他や門柱がない場合は255cm 以上が多くなる。

以上のように門柱が石材のときは一間、もしくは一間一尺前後の開口幅が多く、木材のときは一間幅前後がかなりを占めている。これらの伝統的素材を利用した門柱の設置は門や入口の開口幅を規定していると考えられる。

13 「囲障の素材」と「門柱の素材」の関係 (表26)

表25 門・入口の開口幅と門柱の素材

地区	門柱\開口	w < 165cm	165 ≤ w < 195	195 ≤ w < 225	225 ≤ w < 255	255 ≤ w	横 計
西町	石 材	0 (0%)	4 (40%)	5 (50%)	0 (0%)	1 (10%)	10 (100%)
	木 材	0 (0%)	4 (80%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (100%)
	ブロック他	0 (0%)	1 (8%)	3 (25%)	1 (8%)	7 (58%)	12 (100%)
	門柱なし	2 (12%)	2 (12%)	2 (12%)	3 (18%)	8 (47%)	17 (100%)
堂町	石 材	1 (14%)	3 (43%)	1 (14%)	2 (29%)	0 (0%)	7 (100%)
	木 材	0 (0%)	5 (83%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (17%)	6 (100%)
	ブロック他	2 (11%)	0 (0%)	2 (11%)	2 (11%)	12 (67%)	18 (100%)
	門柱なし	2 (13%)	1 (7%)	3 (20%)	1 (7%)	8 (53%)	15 (100%)

門柱が石材のとき西町ではブロック他の囲障が多い。堂町では石材の門柱に木材の囲障の組み合わせがより多い。西町、堂町ともに門柱が木材のときは囲障も木材が最も多い。門柱がブロック他のときは囲障もブロック他が最も多い。

このように門柱が石材のときは囲障はブロックか木材、門柱が木材のときは囲障は木材となる傾向が

表21 セットバックの有無と門冠りの有無 戸数 (率)

地区	門冠\セット	あ り	な し	横 計
西町	あ り	7 (78%)	2 (22%)	9 (100%)
	な し	15 (43%)	20 (57%)	35 (100%)
堂町	あ り	6 (75%)	2 (25%)	8 (100%)
	な し	16 (42%)	22 (58%)	38 (100%)

表22 セットバックの有無とむくり破風の有無 戸数 (率)

地区	むくり\セット	あ り	な し	横 計
西町	あ り	7 (88%)	1 (13%)	8 (100%)
	な し	15 (42%)	21 (58%)	36 (100%)
堂町	あ り	4 (100%)	0 (0%)	4 (100%)
	な し	18 (43%)	24 (57%)	42 (100%)

表23 門柱の有無と門冠りの有無 戸数 (率)

地区	門冠\門柱	あ り	な し	横 計
西町	あ り	9 (100%)	0 (0%)	9 (100%)
	な し	18 (51%)	17 (49%)	35 (100%)
堂町	あ り	6 (75%)	2 (25%)	8 (100%)
	な し	25 (66%)	13 (34%)	38 (100%)

表24 門柱の有無とむくり破風の有無 戸数 (率)

地区	むくり\門柱	あ り	な し	横 計
西町	あ り	7 (88%)	1 (13%)	8 (100%)
	な し	20 (56%)	16 (44%)	36 (100%)
堂町	あ り	4 (100%)	0 (0%)	4 (100%)
	な し	27 (64%)	15 (36%)	42 (100%)

強い。門柱がブロック等のときは囲障もほとんどの場合ブロック等である。これはブロック等の新しい素材が導入される以前は木材、石材の門柱いずれにも木材の囲障の組み合わせが行われていたと考えられる。それらが改修される時木材の門柱と木材の囲障の組み合わせは揃って取り壊される。石材の門柱と木材の囲障の組み合わせの場合は、耐久性に富む石材の門柱は残され、木材の囲障はブロック等に替えられる場合が多かったためだと考えられる。

14 「門柱の素材」と「むくり破風の有無」の関係 (表27)

西町、堂町ともにむくり破風があるとき門柱の素材はほとんどの場合に石材、続いて木材で、それ以外の場合はない。むくり破風がないときはブロックが最も多くなる。

このようにむくり破風があるとき門柱は必ず石材、

さもなくば木材である。

15 「門柱の高さ」と「門冠りの有無」の関係 (表28)

門冠りがあるとき西町では門柱が255cm以上がやや多い。堂町では225~255cmが最も多い。門冠りがないときは西町、堂町ともに165cm以下、165~195cmが多い。

このように門冠りがあると門柱が一間一尺、二尺前後と高いものが多くなる。門冠りがないときは一間以下の場合がやや多くなる。門冠りは門を修景する役木としてある程度の高さが必要であり、それと見合って家の格式を表現できる高さの門柱の設置がなされていると考えられる。

16 「囲障の高さ」と「門冠りの有無」の関係 (表29)

西町、堂町ともに門冠りがあるとき囲障の高さは

表26 囲障の素材と門柱の素材

戸数 (率)

地区	門柱\囲障	植 物	木 材	石 材	ブロック他	横 計
西町	石 材	0 (0%)	3 (25%)	1 (8%)	8 (67%)	12 (100%)
	木 材	1 (17%)	4 (67%)	0 (0%)	1 (17%)	6 (100%)
	ブロック他	0 (0%)	0 (0%)	1 (8%)	11 (92%)	12 (100%)
堂町	石 材	0 (0%)	5 (63%)	0 (0%)	3 (38%)	8 (100%)
	木 材	0 (0%)	4 (57%)	0 (0%)	3 (43%)	7 (100%)
	ブロック他	1 (5%)	1 (5%)	1 (5%)	17 (85%)	20 (100%)

表27 門柱の素材とむくり破風の有無

戸数 (率)

地区	むくり\門柱	木 材	石 材	ブロック	そ の 他	横 計
西町	あ り	1 (14%)	6 (86%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (100%)
	な し	4 (20%)	4 (20%)	10 (50%)	2 (10%)	20 (100%)
堂町	あ り	1 (25%)	3 (75%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)
	な し	5 (19%)	4 (15%)	16 (59%)	2 (7%)	27 (100%)

表28 門柱の高さと門冠りの有無

戸数 (率)

地区	門冠\開口	h < 165cm	165 ≤ h < 195	195 ≤ h < 225	225 ≤ h < 255	255 ≤ h	横 計
西町	あ り	1 (11%)	2 (22%)	1 (11%)	2 (22%)	3 (33%)	9 (100%)
	な し	5 (28%)	5 (28%)	3 (17%)	3 (17%)	2 (11%)	18 (100%)
堂町	あ り	0 (0%)	1 (17%)	2 (33%)	3 (50%)	0 (0%)	6 (100%)
	な し	7 (28%)	7 (28%)	5 (20%)	6 (24%)	0 (0%)	25 (100%)

表29 囲障の高さと門冠りの有無

戸数 (率)

地区	門冠\囲障	h < 135	135 ≤ h < 165	165 ≤ h < 195	195 ≤ h	横 計
西町	あ り	0 (0%)	2 (22%)	5 (56%)	2 (22%)	9 (100%)
	な し	10 (31%)	12 (38%)	6 (19%)	4 (13%)	32 (100%)
堂町	あ り	1 (13%)	0 (0%)	6 (75%)	1 (13%)	8 (100%)
	な し	2 (6%)	15 (45%)	14 (42%)	2 (6%)	33 (100%)

165~195cmが最も多い。門冠りがないときは135~165cmが最も多く、続いて135cm以下や165~195cmとなっている。

以上のように門冠りがあるときは囲障は一間前後に集中する傾向がある。門冠りがないときはそれよりやや低くなるが、色々な高さに分散している。これは門や囲障上に伸びた門冠りの枝とのバランスからこの高さの囲障が設置されていると考えられる。

近年の変化

対象地区である西町、堂町における近年の変化を見てみたい。木村は同地区において1992年に門冠りとセットバック、門柱素材の調査を行っている。それと今回の調査を比較した結果が以下である。

まず、門冠りを植栽しているのは1992年には西町では13戸、堂町で14戸であった。今回の調査では4章、表10に示したように、それぞれ9戸、8戸となっている。5年の間に西町では4戸(31%)、堂町では6戸(43%)減少している。

次に、セットバックを行い、石材または木材の門柱を設置しているのは、1992年には、西町では16戸、堂町で15戸であった。今回の調査では表32のように15戸、12戸となっている。5年の間に西町では1戸(6%)、堂町では3戸(20%)減少している。

そして、門冠り、セットバック、石柱を同時に持つ住宅が1992年には西町4戸、堂町8戸であった。今回の調査では西町4戸、堂町3戸となっている。5年間に西町では0戸、堂町では5戸(63%)減少している。その減少した住宅の内訳は、セットバック、石柱は残っているが、アカマツの門冠りだけがなくなったものが2戸、家屋が建て替えられたものが1戸、取り壊され空地のものが2戸である。

このようにわずか5年間でかなりの変化が見られた。特に門冠りの減少が大きい。地区別では堂町で大きく変化している。門冠りの減少は松の枯死も考えられるが、門冠り、セットバック、石柱を同時に持つ住宅の減少理由に建て替えや更地化が見られることから、これらの要素以外の変化も大幅に起こっているものと推測できる。

総合考察

前々章で各構成要素の相互関係を考察した結果、それぞれが単独で出現するのではなく、他の構成要素と深い関連をもって出現していることがわかった。

それらをまとめると以下の点となる。

- (1) セットバックがあるときは一間前後の開口幅で木柱や石柱の門を両脇に立て、高い板塀で敷地を囲い、そこから飛石や延段で玄関まで誘導する形態をとる場合が多い。
- (2) 門冠りがあるときはセットバック、一間を越える高い門柱、一間以上の囲障を伴う場合が多い。
- (3) 門柱が石柱や木柱のときはその高さの間隔は一間を越え、半間程度のセットバックを伴い、囲障はブロックか木材である。特に木柱のときは囲障も木材である。
- (4) 門柱がブロックのときは囲障もブロックの低いものでセットバックはないか、半間程度である。
- (5) 囲障が木材のときはセットバックの設置を伴う場合が多い。
- (6) むくり破風があるときもセットバック、石柱の門柱の設置を伴う場合が多い。

このように西町、堂町で見られる伝統的な構成要素である門冠り、セットバック、石柱、木柱、板塀、むくり破風等が特に強い相互関連をもって出現していることがわかる。そして、それらの代表的な特徴や形状は、アカマツの門冠り、道路線から半間程度のセットバック、一間以上の高い石柱、木柱、高さ一間あまりの板塀、玄関上のむくり破風である。これらはそれぞれが歴史的な構成要素としてあらわれるだけでなく、組み合わせられ、一つの格式を持った門構えとして出現することで、より一層下級武家町としての町並みの特徴をあらわしていると考えられる。

ところで、西町と堂町における町並みの特徴の差として、以下のようにまとめられる。

西町は石材の門柱の設置率が高いが、そのときの囲障素材はブロック等が多い。生垣がやや多い。門柱や囲障の高さが多様である。セットバックとアプローチに飛石の組み合わせ、門冠りと門柱の組み合わせ率が高いなどである。

堂町はブロックの門柱が多い。コンクリートのアプローチが多く、石の門柱に板塀の組み合わせが多い。また、むくり破風の数は少ないが、セットバック、門柱の組み合わせが多い。

このようにブロックやコンクリートなどの新しい素材の出現率の差や構成要素の組み合わせの割合の違いなど、若干の傾向の差が見られた。

以上のように伝統的に用いてきたもの以外の素材の導入は、町並みの質感を変化させる。そして、伝統的な組み合わせのなかに取り入れられ、それをも

変化させていくと考えられる。特に囲障でのブロック利用が顕著である。耐久性に乏しい歴史的素材を使った板塀からの造り替えのためだと考えられるが、木材に比して低いものが多い。また、門冠り、セットバック、石柱を同時に持つ住宅が、松の木が失われることにより減少しているように、伝統的と考えられる組み合わせがなくなりつつある。門冠りの有無が門柱や囲障の高さに大きく影響を与えていることから、次の改築時には低い門柱や囲障となっていくことが考えられる。また低い門柱や囲障にはその配置のバランスを考えたとき、セットバックは不要とみなされるかもしれない。

このような一つの構成要素の素材の変化や喪失は、他の構成要素の素材や寸法にも影響を与え、当初の

配置あるいは特徴を踏襲しない町並みの姿に変えていくことが予想される。

引用文献

- 1) 松本市役所：松本市史，上下巻，1933.
- 2) 長野県史刊行会編：長野県史，美術建築資料編，第1巻(2)，pp345-357，1990.
- 3) 岡村勝司，天野克也，横矢吉弘：松本旧市域における歴史的住宅地の整備方針に関する研究，pp15-17，第一住宅建設協会，地域社会研究所，1992.
- 4) 黒岩功編：松本藩六万石城下近郷案内，p38，山麓社，1985.
- 5) 長野県史刊行会編²⁾，前掲書，付図

The Characteristics of Space Compositions of Town Houses in the Historic District of Matsumoto, Nagano

Naoki HIRAOKA, Masashi KOIKE, Yoshihisa TAKAGI*,
Emanouil SPASSOV**, Ikumi KIMURA*** and Kunihiro SASAKI

Laboratory of Landscape Architecture,
Department of Forest Science,
Faculty of Agriculture,
Shinshu University

*Karter Art Landscape Consultant Co., Ltd, Shibuya-ku Tokyo 150-0013

**Minnesota University, Minneapolis MN 55455 USA

***Construction Bureau, Tokyo Metropolitan Government Office, Shinjuku-ku Tokyo 163-8001

Summary

This study aims to explain the characteristics of exterior construction of town houses in Matsumoto, an old castle town. We chose two streets, Nishimachi and Domachi, and researched the arrangement of open space and built space on each residential lot, especially the space composition by the street.

The traditional gardening and building elements that arrange the approach and outside view, are closely connected. Their typical form and dimension are Japanese red pine “monkaburi” (gate side ornamental tree), stone or wooden gatepost more than 180cm in height, board fence about 180cm in height, setback zone about 90cm in width and decorative bent gable over the entrance.

These elements showing traditional arrangement unify each house and lot as well as represent the characteristic features of urban landscape in the historic district.

Key word : Matsumoto, Castle Town, Townscape, Town Houses